

田中さんのお話を聞くと、原点回帰で薄さに挑戦したということ、持ってみると、まるでシャボン玉が固まったのかと思うほど軽くて繊細なのですが、透明感と存在感に目を奪われてしまいました。来客用のテーブルに置かせてもらい、毎日その薄さを楽しませてもらっています。

### 長谷川 彩織 (Galleries-1F Bohemian's Guild by Natsume-Books)

会場のエントランス正面に長谷川さんの作品がズラリと並んでおり、最初の印象は鮮やかで色彩のきれいな風景の作品というものでした。しかし、よく見ると風景とそこに描いてある植物の遠近感がおかしかったり、何の風景かがよくわからず、迷ってしまう。作品の名前を見ると「迷子の風景」とのことです。作品を眺めることで迷子の風景に迷い込むことができ、日常の喧騒から解放してもらえかなと思ひ、購入させていただきました。

### 鈴木 真悟 [鈴木真悟賞]

### 村上 慧 (SelectionGYM-2F 橋美貴 推薦)

自分の趣味嗜好と異なるような村上慧氏の作品の前で、なぜ私足を止めたのかハッキリとは覚えていないが、スーパーのチラシを切り抜いて作った子どもの工作のような作風や、アッチョンプリケなその価格設定にも驚かされ、アートフェアではかなり異彩を放っていた。チラシに掲載されたその商品の価格がそのまま作品の価格になっているので、数十円から数十万円までの価格差がついている。これは確実に、作品に対峙する者やアートフェアへ、アートの価値とは何かを問うような挑発的な態度、生命の価値に揺さぶりをかけるブラックジャックの手術料みたいな価格設定なのだ！  
そうこう考えながら、作品に触れた後に彼のキャプションを覗くと「私と公の関係性を問い直すように活動を続けてきた…」とある。なるほど、制作の根源や作品の価格設定なども、どこか自分の制作に似ているような部分が琴線に触れたのかもしれないと納得。私はこのアーティストの挑発を真正面から受け止め「その姿を顕すトイプードル」価格 217,800 円 (税込)ではなく、一番価格の安く自分の大好物でもあるもやし「その姿を顕すお買い得もやし」価格 30 円 (税込)をキャッシュで購入した。

### 住吉 慶太 [住吉慶太賞]

### 関口 恵美 (Galleries-1F 和田画廊)

「目」に惹かれました。この「目」があることで、プリンが生命体になっています。そんな非日常性とジョークを感じます。

### 傍嶋 賢 [SOBASUTA 賞]

### 柳 哲也 (Galleries-1F TRI-FOLD OSAKA サロンモザイクアトリエ三月 / サロンモザイク / gekilin.)

陶器の様な素敵な作品でした！ Sobaken

### 吉田 ショウヘイ (Galleries-1F TRI-FOLD OSAKA アトリエ三月 / サロンモザイク / gekilin.)

カワイイ作品ありがとうございました！ Sobaken

### 武内 竜一 [武内竜一賞]

### 佐藤 明日香 (SelectionGYM-2F ex-chamber museum 推薦)

例年参加させていただいている 3331 アートフェア。毎年多くの作家を一気に見ることができ、とても有意義なイベントだと思います。最初期から見ている運営オペレーションも、作家選出も、コンバージョンを重ね、地に足のついたアートフェアになっていっていると思います。  
さて、今年わたしが選出させていただいたのはボールペン画の佐藤明日香さん。佐藤さんの作品は、たしか 2 点くらいすでに持って、今回は彼女の新しい模索を感じる一点だったので購入するこ

とに決めました。所有する過去作では、あの小さなキャラクターたちが同居する画面の中を見ている時、「この子いつからいたんだ？」と、思うことがよくありました。もちろんずっといたキャラクターなのですが、その細密さ故に細部を全て覚えるのは難しく、また、その発見が、日々楽しく作品を見続けられるという、彼女の作品の魅力だと思います。  
こうして同じ作家を、年を追ながら購入できるということをととても嬉しく思いますし、また、今後の作家としての発展にも期待したいと思います。  
そして最後に、また来年も楽しみにしています。

### 竹下 都 [ウサギ賞]

### しりあがり寿 (Galleries-1F Gallery Q)

しりあがりさんのユニークな批評精神に溢れた作品群にも引かれています。観ると思わずクス！と笑ってしまう作家の視線。身近に置きたくなります。

### 谷川 純平 [谷川純平賞]

### 岩竹 理恵 (SelectionGYM-2F 細瀬太麻紀 推薦)

タイトルのとおり、机上 = 脳内と机の上という完全に閉鎖された箱庭の中を覗き込んだ、あるいは覗き込まされたような作品で飲み込まれました。この枠の中は岩竹氏だけの世界、でも透明なガラスだから他者でも覗くことはできる、正しくアーティストと観測者の関係性を感じました。

### 田島 恵美 (Galleries-1F Gallery TK2)

全体の構成はバランスがとれているのに、二人の目線や手はすべてチグハグ。そのアンバランスさに人間の拙さと可愛さを感じました。会話は成立しているが二人共相手を見ていない、話を聞いていない、立ち話なんてそんなもの。

### ワタナベ メイ (Galleries-1F 羊画廊)

見た瞬間シンプルに「かわいい！」と思いました。無表情にスマホをかかげる着飾った少女は、大人や男のためじゃなく自分のためにおしゃれをして鏡に向き合っていると感じました。

### ツツミ エミコ [ツツミエミコ賞]

### 森田 薫 (Galleries-B1F CFSHE Gallery)

麻の葉由来の制作やコレクションをしているので共感性がありました。水性木版の繊細さを活かしきった清々しい作品です。アーティストの海外レジデンスの報告を兼ねた展示内容やその場での刷りの実演等、作品だけではなくまだまだ可能性があると感じて選ばせていただきました。

### 寺内 俊博 [Shibuya Style Prize]

### 岩崎 奏波 (Galleries-1F Room\_412)

### 杉江 遥奈 (Galleries-1F Bohemian's Guild by Natsume-Books)

### 遠山 正道 [遠山正道賞]

### 川村 摩那 (Galleries-1F DMOARTS)

遠目から見て、おっ、これは彼女っぽいな(この時名前がまだ出てこず)、この色とパターン構成と手癖のようなものが、と思っていたら川村さんが川村です！と登場した。川村さんは早稲田文学部から京都芸大へ行った変わり種。  
今回の作品も筒井康隆の「駝鳥」が下地になってると。「これがダチョウでここが金時計で」と言われても全く分からない。全然分か